長崎市立滑石小学校　校長室だより　Ｎｏ57

6月　今日の一言

５．６．２７　校長　渕上　卓也

滑石っ子の心を見つめる教育週間

みんなと過ごした日々

ぼくは，五年生の三学期から六年生の夏休みまで入院をしていました。入院していたので，みんなと過ごした日々は少ないです。それに，運動会や小体会の時に参加さえできませんでした。

でも，退院してからは，修学旅行やいろいろな行事に参加できたり，定期治療で遅れた勉強を教えてもらったり，図工を手伝ってもらったりして，こんなにうれしい事はありません。

ぼくは，このクラスのみんなと同じクラスでよかったと思います。

みんな今までありがとうございました。中学生になって遅れているところがあったら自分で努力して，みんなに追いつきたいと思います。

卒業してみんなと別れても，ぜったいにこの六年四組のみんなと先生の名前と顔を忘れません。

みなさん本当に今までお世話になりました。ありがとうございました。

長崎市立西城山小学校第三十三回卒業生
ささがき　のぶお
笹　垣　暢　央　君　卒業文集より

「滑石っ子の心を見つめる教育週間」には、多くの保護者の皆様、地域の皆様に御来校いただき、ありがとうございました。久しぶりに土曜授業も実施し、たくさん子どもたちの心に触れていただけたことでしょう。これからも、学校、家庭、地域が連携・協働して、豊かな心をもつ滑石っ子を育んでいきましょう。

さて、上記の作文は、昨年度も紹介しましたが、私が初めて卒業担任をした時の卒業文集の一文です。教育週間のスタートにあたり、毎年読み返しています。「ぼくは、このクラスのみんなと同じクラスでよかったと思います。」今でもこういう思いをもたせることが、私の目標です。まさに「なかまに　めぐまれた　しあわせな学校」の姿です。

もうすぐ彼の命日。今年もお墓参りに行って、「君が卒業した西城山小学校に負けないように、『なかまに、めぐまれた、しあわせな滑石小学校』であり続けるからね。」と、決意を伝えてきます。

＜今日の一句＞
教え子の
心に教わる
「教師とは」　　卓也